

## 第5回 トレーニングセミナー in ケソン州サリアヤ

ケソン州はフィリピン有数のココナッツの産地です。新鮮なココナッツジュースや果実は私たちの体となり、殻は食器やハンディフラフトとして加工されたりオイルを抽出したり、幹や葉は家屋の材料となります。何一つ無駄になるところがないココナッツの木、フィリピンでは“tree of life”と呼ばれています。本日は6月26日にケソン州サリアヤで行ってきたトレーニングセミナーのご報告をさせていただきます。

5月14日に同地、ケソン州サリアヤで木酢液抽出のための炭窯設置をさせていただきました。しかし生憎のスコールによりその日のうちに実際に木酢液を抽出出来ないままとなりました。そこで今回はトレーニングセミナーも兼ねて、同地で木酢液の抽出作業も行ってきました。

当日はケソン州サリアヤ町の村々からおよそ50名程の参加者が集まり、外に張ったテントの下でのセミナーとなりました。フィリピン安全農畜産技術普及支援プロジェクトの概要を私が、炭・木酢液・コンポストの有効性と具体的な使用方法について現地スタッフの Willy さんが、家畜生産の炭・木酢液の有効性について現地スタッフの Guada さんが担当しセミナーを進めました。今回のセミナーでは、参加者の興味、関心をより引き出せるよう、参加者自身が抱える問題や目指したい方向を皆で共有し安全農畜産技術を用い解決策を導き出せるよう、質疑応答の時間以外にも参加者とコミュニケーションをとれる時間を長めに設けてみました。普段よりも参加者との接点が多くなり、今後より深くフィリピン全土で安全農畜産技術を普及させていくためのヒントを得られたと思います。



<講話中 Willy さん>

当日の朝、5月14日に建設した炭窯に火入れをしていましたので、トレーニングセミナーが終了した午後2時30分から実際に木酢液の抽出作業を開始しました。この日はココナッツの殻を木酢液抽出の材料としました。実際に稼働をしているところを見ることは重要で、トレーニングセミナー内では上がらなかった質問が実作業を通して挙がり参加者の理解も深まったと思います。

例えば、3~6カ月、抽出した木酢液を安置させた後、木酢液部分を採取する方法（水、タールを除いて。）や炭窯が雨に濡れないよう早急に屋根を作る必要性への理解です。抽出された木酢液の匂いを嗅いだり、冷却装置の中を覗き込んだりしている姿は印象的でした。



<ココナッツの殻>



<抽出した木酢液>



<冷却装置を覗き込む参加者>



<質問をする参加者>

セミナーを行った6月26日は金曜日でした。翌日土曜日、参加者の一人から「皆で炭窯が濡れないように屋根を作ったよ。」という連絡を受けました。サリアヤに建設されたこの炭窯が地域の人々の生活に根付いてくれることを祈りつつ、他地域でも炭・木酢液、そしてコンポストを利用した安全農畜産技術が広まっていくよう、現地スタッフ3人足並みを揃え邁進したいと思います。